

令和 2 年 5 月 25 日現在

機関番号：14101

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K04682

研究課題名(和文) 小島嶼国サモアの後期中等教育におけるローカル化とグローバル化に関する実証的研究

研究課題名(英文) A study of Localization and Globalization of Secondary Education in Samoa

研究代表者

奥田 久春 (Okuda, Hisaharu)

三重大学・教養教育院・特任講師(教育担当)

研究者番号：30535373

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、大洋州7カ国共通の中等教育資格(PSSC)が2013年に廃止され、サモアで独自のSSLCが実施されるようになった背景と変容過程、そのインパクトを探り、サモアの小島嶼国としての中等教育のローカル化とグローバル化の実態について明らかにした。

SSLCの教科構成や校内評価はPSSCからの継承があり、ニュージーランドや大洋州の中等教育と同等にするための地域的な国際標準化として考えることができる。また教育内容や学力に大きな変化は見られないことから、サモアの中等教育では特定の知識のローカル化ではなく、校内評価を中心とした試験制度や実施体制のローカル化であることを明らかにすることができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

中等教育のローカル化とグローバル化のバランスは特に小島嶼国にとっては大きな課題であることが、これまでの比較教育学研究でも指摘されてきた。しかし大洋州のサモアをはじめとした島嶼国が地域共通の中等教育資格を廃止し、各国が独自の資格に移行したことで、グローバル化とローカル化のバランスにどのような影響を与えたのかについて、検証されていなかった。本研究では、サモアを事例にローカル化とグローバル化の実態を探り、小島嶼国の中等教育のあり方としては、教育内容のローカル化ではなく、校内評価という地域的な国際標準化を維持した上で、資格試験の実施、運用のローカル化であるという理論モデルを構築する基盤を提示した。

研究成果の概要(英文)：This study aimed to explain the contexts and backgrounds in a turning point of the abolishment of the Pacific Senior Secondary Certificate (PSSC) examination in 2013, which had been implemented in common in 7 countries. This is a case study in Samoa and tries to analyze factors contributed to this and system's transformation and its impact on globalization and localization of Samoa secondary education as a small island country.

This study found some educational inheritances in subjects, examination and Internal Assessment from PSSC to Samoa Secondary Leaving Certificate (SSLC). This can mean a regional based internationalization to be equivalent to New Zealand education. However, student's capabilities from PSSC to SSLC remained unchanged. After SSLC introduced, teachers became able to assess students' performances in local. This study concluded the localization was by no means the introduction of localized curriculum but examination and assessment management in Samoa.

研究分野：比較・国際教育学

キーワード：中等教育資格試験 サモア 大洋州 ローカル化 グローバル化 校内評価

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

南太平洋の小島嶼国サモアの中等教育では、1962年の独立以降もニュージーランドの教育内容が教えられてきた。特に高等教育への進学に際してはニュージーランド大学入学試験(NZUE)が用いられてきた。これが1980年代に廃止されてから、南太平洋教育評価委員会(SPBEA)による太平洋中等教育資格(PSSC)試験に参加するようになった。しかし2013年に独自のサモア中等教育修了資格(SSLC)試験に切り替えた。このようにサモアは地域の国際的な教育資格からサモア独自の資格(ローカル化)へと教育改革を進めたと言える。その一方で、小島嶼国であるため、ニュージーランドの大学や南太平洋大学への進学も依然として必要だと考えられる。またサモアはコンピテンシー型のカリキュラムを導入しており、国際化の流れにあるといえる。即ちサモアといった小島嶼国の後期中等教育では、ローカル化と国際性(グローバル化)とのバランスが課題でもあったと考えられる。

こうした小島嶼国の教育に関する研究は、1980年代から本格的に行われるようになり、比較教育学でもC. BrockやK. Bacchusらの研究によって一分野が形成されてきた。中でも1990年代後半から2000年代初めにかけてのMark Brayらによる小規模国の中等教育修了資格に関する一連の研究は、比較分析を伴った理論モデルを提示したものとして、重要な研究成果であった。また同じくBrayは国際的認証と国家の教育の弁証法的関係を論じており、小島嶼国の中等教育の課題を明らかにする上で参考になるものであった。

しかしながら、それ以降の先行研究には、小島嶼国の中等教育資格試験、特にサモアのようなローカル化について報告、考察している研究は見当たらない。

### 2. 研究の目的

このような背景のもと、本研究ではサモアがPSSCを2013年に廃止し、独自の試験(SSLC)を実施するようになった転換点に着目して、その導入の背景と過程、中等教育内容と学力観の変容、卒業生の進学行動への影響など、教育のローカル化の実態と国際性(グローバル化)を明らかにすることを目的としている。

小島嶼国では国内の高等教育への接続が限られているため、後期中等教育には国際的な認証が必要である。また各国ではコンピテンシーに基づく教育の導入など、教育のグローバル化が進んでいると言われる中、サモアのローカル化のケースがどのような意味を持つのか批判的に検証することは、国家と教育との関係を問い直すためにも意義があると考えられる。こうした小島嶼国の教育のあり方の新たなモデルケースを提言していくことが最終的な目的である。具体的な研究目標は次のとおりである。

サモアの後期中等教育のローカル化の実態の解明、サモアの後期中等教育のグローバル化(国際標準化)の実態の解明、小島嶼国の後期中等教育のあり方に関する批判的検証と理論モデルの提示

### 3. 研究の方法

本研究において、( )なぜPSSCからSSLCに移行したのか、( )どのような中等教育資格に変容したのか、( )サモアの中等教育にどのような影響を与えたのか、というリサーチクエスチョンを設定した。理論的枠組みとして、教育政策のローカル化とグローバル化の弁証法的関係、グローバル化については国際標準化とその借用という観点を設定した。その上で、次の方法で調査を行った。

- (a) 文献資料による基礎調査、先行研究の整理  
小島嶼国の教育に関する先行研究、サモアの教育政策に関する文書、資料、及びPSSC及びSSLCの過去問題の収集と整理、分析
- (b) サモア現地調査  
サモア教育スポーツ文化省においてPSSCからSSLCへの移行の経緯と背景、後者の試験問題の趣旨、教育内容の変容、採点結果の傾向についてのインタビュー調査、中等学校での授業やSSLCへの意識について教員及び生徒へのインタビュー調査、サモア国立大学予科での学生の学力の変化に関する質問紙調査
- (c) フィジー、ニュージーランドでの現地調査  
PSSCの実施母体であった南太平洋教育評価委員会(SPBEA、現EQAP)においてPSSCに関するインタビュー調査、オークランド大学(ニュージーランド)での校内評価に関する資料収集、中等学校教員及び生徒の意識に関するインタビュー調査、南太平洋大学(フィジー本部)にてSSLCに関する教員へのインタビュー調査
- (d) 理論モデルの検討  
上記を踏まえた、サモアをケーススタディとした説明モデルの検討

### 4. 研究成果

#### (1) 研究の主な成果

サモアの後期中等教育のローカル化の実態の解明

大洋州7カ国で、Form6の学年を対象に実施されていた地域共通のPSSCが2013年に廃止され、サモアにおいても独自の試験が実施されるようになった転換点に着目しつつ、そこには

どのような背景があり、どのように変容し、どのような影響を及ぼしたのかを明らかにした。

まず、先行研究や文献からサモアの後期中等教育資格試験の変遷に関してニュージーランドの NZUE からの脱却、PSSC の導入及びその質的改善や制度的変容、PSSC の廃止とサモア中等教育修了資格 (SSLC) の導入という 3 つの歴史的枠組を設定し、それぞれの背景を整理した。そこから、いずれの資格試験においても一貫して共通しているのが校内評価 (Internal Assessment) の踏襲であることを指摘できた。またこれは上記 7 カ国の比較分析から地域に共通していることも明らかにできた。

また PSSC を廃止し SSLC を導入した背景として、PSSC は各国が教育担当省庁や学校にて独自の後期中等教育資格試験を開発、実施できるようになるまでの過渡期のものであり、そのための研修機能を有するものであったこと、その廃止は既定路線であったことを確認することができた。これは Bray, Trevor Rees, Gurmit Singh (1998) が SPBEA の当初の役割として既に述べていたことであるが、今回の EQAP でのインタビュー調査や SPBEA の資料の解読によって、その実態と特徴を明らかにすることができた。例えば SPBEA は単なる資格試験の開発・実施だけでなく、教員や行政官が校内評価を効果的に行うための研修や訪問指導を行ってきた。このことはニュージーランドにて NZUE と平行して行われていた Form6 試験と PSSC を同等の試験とするべく、校内評価が導入され、その評価能力の向上が図られてきたためであると推察できる。

更に PSSC の質的改善に合わせて、太平洋地域で共通の教科内容とし、また各国が Form7 までの教育制度を整備するようになってきたことを明らかにした。この地域共通の教育内容については、2013 年以降各国 (サモアやトンガなど) が SSLC などそれぞれ独自の試験に移行した後も PSSC からの継続性と、各国の共通性が見られる。僅かに独自性はあるものの、全般的には PSSC の廃止は地域共通試験からの脱却ではなく、PSSC の継承であり、その上でサモアを含め各国独自のローカル化が図られていると考えることができる。しかしながら、教育内容がローカル化されたといえるだけの十分な事例は見当たらない。

また本研究では、ケーススタディとしてサモアの中等学校 13 年生 (Form6 相当) 担当教員の PSSC 及び SSLC についての意識を教科別にインタビュー調査を行ったが、多くの教員は SSLC への移行によって、校内評価のモデレーションの手続きや学習成果の提出をサモア国内で完了でき、授業の進行に時間的余裕が出ると考えており、「サモア語」「ビジネス科」以外にローカルな知識が教授できるという回答はなかった。

むしろ、サモア教育スポーツ文化省カリキュラム・教材開発局では、学習成果の理論である SOLO タキシノミーに基づいた新たな教育評価方法とカリキュラムの開発に取り組んでいる。その評価の枠組が PSSC よりも簡略化されたものであることから、教員が運用しやすいものに切り替えていると考えられる。

更にサモア国立大学予科 (Foundation Year) の教員への質問紙調査から、PSSC 実施時と廃止後の学生の学力の変化についての意識を分析した。その結果、PSSC から SSLC への移行において、生徒の学力に目立った変化はなかった。またサモア国立大学の統計資料より、中等学校からサモア国立大学予科、同予科から (海外大学への進学ではなく) 本科への進学者数の変化を見ると、PSSC が廃止されて以降、一定の増加が見られた。

以上のように、サモアの中等教育のローカル化とは、カリキュラムと評価の独自の運用可能性という点で説明できよう。また、サモアにおいては、中等教育資格のローカル化によって、高等教育への進学行動に多少のローカル化が見られるが、学力に大きな影響は見られないことから、中等教育の内容や学力にも影響を与えうる変化がなかったことが窺える。

#### サモアの後期中等教育のグローバル化 (国際標準化) の実態の解明

サモアの SSLC は他の元 PSSC 参加国が作成するいずれの教科の試験問題の内容や構成においても、多くの共通性が見られた。それらはサモア国内に関する知識よりも、世界的な知識を問う設問となっている。これらは PSSC の継承であるとともに、他の島嶼国との共通性を図っていると捉えることができる。また校内評価は SSLC 及び他の PSSC 参加国でも踏襲されており、でも述べたようにニュージーランドを起源とした校内評価の方法を用いることで、ニュージーランドの中等教育と同等にするための一つの地域的な国際標準化が見られると捉えることができる。ニュージーランドで現在行われている中等教育資格の NCEA と PSSC や SSLC では、教科の構成や内容において類似点が多くないものの、校内評価だけは継承されている点で、特に校内評価が重要視されているといえよう。

しかし校内評価と学校外 (統一) 筆記試験との割合は、サモアでは PSSC と異なり、SOLO タキシノミーに基づきながら設定されるようになった。ここに PSSC からの脱却が見られるのだが、これがサモアの独自性と断定はできない。トンガでも同様に SOLO タキシノミーが用いられているからである。ここにどの程度の EQAP の関与があるのか今後の研究課題となる。

また、サモア国立大学予科から本科への進学が多少増えたものの、依然としてニュージーランドや南太平洋大学への進学が極端に減少している訳ではなく、希望者も少なくない。これらのことから、SSLC の内容が国際的に通用する学力を測るものとして機能しているといえよう。

#### 小島嶼国の後期中等教育のあり方に関する批判的検証と理論モデルの提示

以上のように、小島嶼国サモアの教育のローカル化とグローバル化について、本研究では次

のことを明らかにしてきた。即ち、サモアの中高等教育においては教育内容や知識のローカル化ではなく、校内評価という大洋州地域の共通性を維持することによって、国際的な標準を維持した上で、試験制度や実施体制をローカル化させていることである。このことは、他の小島嶼国の後期中高等教育でも同様の特徴が見られる。研究者の中にはこうしたローカル化に留まっていることについて批判がないわけではない。しかしながら、教育内容のローカル化は依然として困難な課題であるといえよう。

今回の研究では、まだ理論モデルの提示には至っておらず、定立できた仮説を完全に実証できた訳ではないが、既に収集した資料やデータを継続的に分析することで、更に理論化を進めていきたい。

### (2) 得られた成果の国内外における位置づけとインパクト

こうした研究成果は、わが国においても島嶼国の教育研究、中等教育資格のローカル性と国際性、グローバル化の意義や現状、今後の方向性に関する研究基盤として一つのモデルを示すことに繋がるであろう。特にオークランド大学や南太平洋大学の教育学研究者と本研究に関する意見交換を進めており、サモア国立大学の研究者とも共同研究の形で進めることができた。これらの研究成果はオセアニア比較国際教育学会(OCIES)や太平洋サークルコンソーシアム(PCC)にて発表することとしている。また、今後、ニュージーランドと大洋州島嶼諸国との教育的関係とその影響力を考察することにも繋がり、国際的な比較教育研究に貢献することができると思われる。

### (3) 今後の展望

サモアにおける PSSC から SSLC への移行には、多くの混乱があったことが生徒・学生の保護者からのインタビュー調査や現地メディアの報道から浮かび上がってきた。併せてフィジーの南太平洋大学の研究者のインタビュー調査からも、SSLC に対して批判的な意見が出ている。SSLC に移行したことのインパクトを評価するために、今後も継続的にフォローアップ調査が必要となろう。

こうした各国独自の中等教育資格が継続していく中で、今後サモア及び他の島嶼国がどこまで、どのように共通して校内評価の質を維持していくことができるのか、或いは校内評価そのものが各国独自の基準によって変容していくのであれば、後期中等教育資格としての国際的認証をどのように行っていくのか、といった大洋州地域の共通性と国際性を検証していくことが求められよう。

また、今回の研究で、校内評価に関してニュージーランドの中等教育との比較をするため、ニュージーランド中等教育資格(NCEA)に関する文献を収集し、校内評価の位置づけも考察した。更にニュージーランドとサモア両国の中等学校の生徒の中等教育試験への意識調査も行った。これらを更に拡大し、大洋州における校内評価の教育学的有効性を検証することも今後の課題であり、次期科学研究費補助金による研究に繋げていくこととしている。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 奥田久春	4. 巻 第4号
2. 論文標題 大洋州共通の後期中等教育試験PSSCに関する考察-地位共通の試験制度の意義-	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 三重大学教養教育院研究紀要	6. 最初と最後の頁 9-18
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 奥田久春	4. 巻 第3号
2. 論文標題 大洋州における中等教育試験制度の変遷-PSSCの廃止に着目して-	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 三重大学教養教育機構研究紀要	6. 最初と最後の頁 25～34頁
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 奥田久春	4. 巻 第5号
2. 論文標題 ニュージーランドにおける後期中等教育試験と校内評価に関する研究	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 三重大学教養教育院研究紀要	6. 最初と最後の頁 1-12
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 奥田久春
2. 発表標題 大洋州島嶼国の後期中等教育における Internal Assessmentに関する研究
3. 学会等名 オセアニア教育学会第22回大会（東京外国語大学、11月25日）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 奥田久春
2. 発表標題 大洋州島嶼国の中等教育試験制度の変遷
3. 学会等名 オセアニア教育学会第21回大会（東京工業大学、12月3日）
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

国際学会として、オセアニア比較国際教育学会（OCIES）や太平洋サークルコンソーシアム（PCC）にて発表することとしていたが、2019年11月のサモアでの麻疹の流行による中止と2020年の新型コロナウイルス感染症のため、発表を見合わせている。

6. 研究組織		
氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考